

# みんなで子育て No. 10



バックナンバーは  
こちらから▶



岐阜県環境生活部 環境生活政策課  
家庭教育推進専門職 : 辻  
Tel 058-272-8752

明けましておめでとうございます！ 家族そろって良い年を迎えられたことと思います。さて、お正月というと、子どもたちの楽しみは「お年玉」でしょうか。お年玉の由来は、「御歳魂」という言葉からです。御歳魂は、正月に歳神様を迎えるためにお供えされる丸い鏡餅のことにあります。お供えした後は家族に分け与えられ、一年を無事に過ごせるように祈りました。現代のように現金を渡すようになったのは、昭和30年代以降だと言われています。子どもたちのお年玉の使い道を調べてみると、年代や性別で異なりますが、小中学生のトップは貯金（親に預けるを含む）です。続いて、おもちゃやゲーム、文具などになります。お年玉は、親子でお金について考えるよい機会ですから、子どもの考えを尊重しながら、話し合ってみてください。老婆心ながら、親権者は、子の財産を管理する権限を有しますが、あくまでお年玉は子どもの財産ですので、親が子どもの許可なく使うことはできません。使い方については、親子でよく話し合い、双方の合意の上、決めるようにしてください。

## 本巣市立一色小学校 「マネーセミナー」 11月22日

講師 ファイナンシャルプランナー 永田 佑加子 氏



教育、マイホーム、老後などの資金づくりについて、どうするべきなのかを悩んでみえる方も多いのではないかとということで、お金について学ぶ機会を設けられました。現在の高校では金融教育も始められていますが、保護者世代はお金について学ぶ機会がほとんどありませんでした。専門知識のある方からお話を聞くことができる貴重な時間になったと考えます。

はじめに、今と昔の日用品の価格の違いから、お金の価値の変化についてお話がありました。現在、高騰しているガソリン価格ですが、22年前は1L当たり87円だったそうです。某アトラクション施設の入園料も、開園時は3900円でしたが、現在、日によっては1万円を超えるようになっており、多くのモノの値段が上昇し、同額のお金の価値が下がっていることを学びました。ただ、中には安くなったモノもあり、いつ何を購入すべきかは、よくよく考える必要があります。時代は変化しているので、固定観念に縛られず、変化に柔軟に対応し、素早く動けるように準備をしておく必要があると感じました。

### 保護者の声

日々のお金の使い方は意識しています。子どもたちの教育資金は、父親が積み立てています。子どもたちのお小遣いは、お手伝いをポイント制にして、たまったポイントに合わせて渡しています。物やお金を大切に使うために、文具やお菓子は、お小遣いで買わせるようにしています。

NISAを始めるための準備は済ませました。大学に通うために借りた奨学金の返済を現在も行っている人が身近にいるので、教育資金は可能な限り親が準備し、子どもの負担を軽くしてあげたいと思っています。子どものお小遣いは、毎月定額+頑張りに対するボーナスで渡しています。

お金について学ぶ機会があまりないので、今日は新NISAなどについて知ることができて良かったです。お金についてはアプリを使ってスマートフォンで管理しています。お小遣いは、毎月千円+時々ボーナスで渡しています。

令和5年度 一色小学校 第6回PTA家庭教育学級  
知っておきたい！ お金のこと

## マネーセミナー

資産運用について!!

- ・積立NISAやiDeCoなど耳にはするけどよく分からない・・・
- ・資産運用など何かしたいけど何から始めたらいいの？

ファイナンシャルプランナーが、分かりやすく説明します！

日程 11/22 (水) 13:30~ (約1時間)  
会場 本館1階/パソコン室

飲み物付き  
お菓子付き

講師 永田佑加子さん  
ファイナンシャルプランナー

運用の基本についてお話しします。決して難しい話ではありません。興味はあるけど怖い、と悩んでいる方にとっての入り口になったら幸いです。ぜひ、お気軽にお越しください。

## 山県市立大桑小学校 「アンガーマネージメント研修」 12月7日

講師 山県市子どもサポートセンター 主任児童・生徒相談員 出崎 秀人 氏



家庭教育学級長さんの強い願いにより、アンガーマネージメント研修を企画、運営されました。

子育てや介護をしていると、つい強い口調で言ったり、怒ったりしてしまうことがあります。そして、あんな言い方をしなければよかったのにと後悔することになります。子どもを叱るときは、もちろん「子どものために…」という思いで叱りますが、強く叱責された子どもは心を閉ざして、親の怒りが収まるのを待つことになります。こうなると、親の思いは子どもに伝わり難いのではないのでしょうか。

講師の出崎先生は、参加者にいろいろな問いかけをされましたが、1つの事例に対する人々の考えや捉えが1つではないこと、同じ事象の中にいる当事者であっても、立場によって感じ方や思いが異なることを、参加者自らが気づくことができるように、穏やかな口調でお話をされていました。

「怒り」は二次感情であるので、その基にある一次感情を上手に、そして適切に相手に伝わるようにすることが大切であること、また、「怒り」はエネルギーなので、うまくコントロールしてつきあうことで、良い成果を生み出すことができるというお話は、「怒り」を抱くこと自身がいけないのではないという、新しい視点を示していただけたと感じました。更に、「いろいろな見方があるので発想を変えてみる」「小さな部分を見たら、大きな部分も見ようとする」「叱っても、褒めても、最後のフォローが大切」「愛情が全て！」等、子どもと接するときのポイントを学ばせていただきました。

### 保護者の声

思い込みで話をすることがあるので、発想の転換を図り接していきたいと思いました。子どものよいところを応援するために、少しでも得意なことを伸ばしてあげたいです。

無関心が一番いけないと考えています。自分の怒りを客観的に見ながら一次感情を確認したいと思います。怒ってしまった時は、寝る前か翌日起きた時に、こちらの思いがどれくらい子どもに伝わっているかを、他の言葉を使いながら、確認するようにしています。

## 岐阜市立長森西小学校 + 長森西公民館 「人権研修会」 12月8日

講師 清水 美恵子 (茂益亭 蝶代 もましてい ちょうよ) 氏



岐阜市第5ブロック地域人権学習推進事業として、長森西地区の人権教育推進委員会、公民館、小学校、PTA、子ども会がコラボして研修会を開催されました。

近年、人権ハラスメントについては、「それ、〇〇ハラスメントですよ！」という声をあげる社会の雰囲気が高まってきているように感じます。全ての人が「人が不愉快な思いをするような言動は、決してしない。」という強い意思をもつことが期待されます。

今回の研修は、清水氏による「笑いヨガ」、長森西小学校児童による「人権作文発表」、清水氏による「人権落語（こほめ）」の3部構成で行われました。

赤ちゃんは、1日に400回ほど笑うそうですが、20代になると20回、70代になると2回に減ってしまうそうです。笑うことが心身の健康維持に有効であることが実証されているにもかかわらず、人が笑わないのは、笑う場所がないからだと考えたインドの医師マダン・カタリアが始めたのが「笑いヨガ」です。始めて1年もしないうちに全インドに、そして現在は、世界100か国以上に広がっています。

清水氏のお話の要点は、**どんなことも笑いにしてしまい、日常の中にどんどん笑いを取り入れていき、心を健康な状態に保ちましょう**ということであったと思いました。それは、児童作文の中にあった「いつも笑顔でニコニコ、心はポカポカ」の実践とも重なり、これをみんなで実践すれば、人権問題の多くが解消の方向に向かうのではないかと考えることができました。

### 保護者の声

人に対面する時には、笑顔で接するように努めています。1人で過ごす時間が多いため、教えていただいた、鏡の中の自分に向かって、心がウキウキするようなポジティブな言葉をかけることをやってみようと思います。また、子どもたちに、「持ち物は？」「宿題はいい？」と細かく言ってしまう、後悔する毎日なので、言いたくなかったときは、子どもが嫌な気分にならないよう、教えていただいた「パピペポを組み合わせた意味の無い言葉」に置き換えることに、挑戦したいと思います。

人権というと少し難しいものと考えてしまうので、落語のような親しみやすいものを通して、楽しく学ぶことができ良かったです。日常に笑いを取り入れることは大切かなと思いました。子どもたちのなかなか聞くことができない生の声が聞けたことは良かったです。うちの子にも聞いてみようと思います。

## 第2回岐阜地区家庭教育担当者会 兼 第3回家庭教育支援市町村連携会議 12月8日

年に2回、各市町で子育て支援や家庭教育支援に携わっている行政職員の代表が集い、情報交流や研修を行っています。今回は、「No.9」通信で紹介しました、瑞穂市の家庭教育支援チーム「NPO法人キッズスクエア瑞穂」の立ち上げから現在までの流れと活動内容についてを、行政との結びつきも合わせてお話いただき、子育て支援、家庭教育支援の在り方について考えることができました。

また、岐阜市の商業地域に建設された「柳ヶ瀬グラスル35」に、令和5年4月30日オープンした「岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設『ツナグテ』」を訪れ、この施設の目的や、施設概要について説明を受け、館内を見学しました。

講師 NPO法人キッズスクエア瑞穂 理事長 相浦 良子 氏

舞台鑑賞と体験活動を軸に、親子が集い、みんなで子育てをする会員制団体として始めた活動を、もっと多くの方にも参加してもらえるようにするため、2002年にNPO法人化。託児つき講座を開催するために、託児者養成講座も行い、乳幼児の世話をするスタッフを独自に育成されています。

赤ちゃんに一度もふれたことがない妊婦さんに出会い、自分にちゃんと子どもを育てることができるのかという不安をもっていることを知り、体験する機会を意図的に作るしかないと考えられ、中学生の保育体験授業支援を始められました。

地域のつながりが希薄になり、いざというときに、子どもの預け合いができなくなった状況に対応するため、ファミリー・サポート・センター事業を市から受託し、現在では、小規模保育施設も開設され、支援を必要とする親子をまるごと応援できる仕組みを構築し、「地域みんなで子育て」を実践されています。

### 法人化の議論 (2000年～2001年)

- ・会員だけでなく、もっとみんなが参加しやすい仕組みにしたい
- ・4才未満の子やその親も参加できる会にしたい。
- ・みんなが助け合って子育てができる地域にしたい
- ・「地域みんなで子育て」をする拠点になるような団体にしたい
- ・ボランティアだけでは長く続けられない
- ・長く継続している仕組みや活動を作りたい

共益 → 公益 NPO法人化

親になる前に、赤ちゃんにふれる機会を意図的につくり、命の大切さを感じるのと同時に、子育ての楽しさと、大変さを体験

- 自分もこうだったんだ
- 何をして欲しいのか考える経験
- 頼られる・必要とされる経験、役立ち感
- 子どもを持つってこういうことだ



親と乳幼児が1対1で過ごす時間が長くなり過ぎていることを指摘される教育者もみえます。相浦氏の思いも、子育ては親だけで行うものでなく、周りにいる者が協力して行うものであると考えてみえます。

### 現在の活動



#### 子育て支援

- まめっこ保育園  
2017年4月にオープンした瑞穂市初めての認可小規模保育所です。
- キッズパーク  
子育て世代のほっとスペース、スタッフいますので、子育てのこと、子どものこと、いろいろおしゃべりしながら、のんびり過ごせます。
- フードパトリー  
国産野菜に食品を配布しています。

#### こっこクラブ

比較的多数  
30分～1時間  
ワークショップなど

#### 児童虐待防止 オレンジリボン啓発活動

- みつばち基金  
生活困窮・養育困難家庭への支援
- 講演会  
「子育ての悩み」「発達障害が、後学で課題」「親子別行動」など
- 瑞穂市・本郷市ファミリーサポートセンター事業  
保育園・学童園の子どもの送迎や病欠など子育て真っ最中の保護者の「困った」を解決員がサポートする制度が幅広く実施中です。  
※出社社員ともお気軽に相談ください。

#### 子どもの体験

野外活動 など、いろいろな世代の子とあそぶ交流できる活動もこなしています。

中学生の乳幼児保育体験授業  
中学生が乳幼児を1対1で預かり、おとなの親守りの心、育児を体験する授業。2005年から市内の3つの中学校と協力して実施しています。

親子で楽しむプロの舞台鑑賞  
講師・人形劇・コンサートなどに出席できる機会も身近な場所で行われます。

岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設「ツナグテ」 施設長 金子 由明 氏

この施設には、無料の「ふぁみりーエリア」と有料の「きっずエリア」があり、岐阜市民以外の方の利用も可能です。

就学前の乳幼児の一時預かり（原則、予約制で有料）を行う「あずかるルーム」や子育て「そうだんじつ」も備えられています。

この施設のコンセプトは「あそび場はまなび場」で、子どもたちに遊びを通して学び、成長し、探求力を高めてほしいという願いのもと、天候に関係なく遊び込める場所として開館しました。

きっずエリアには、子どもの興味・関心等に応じ、子ども自らが考え選択できる、多様な学びができる空間（そうぞうアトリエ）が設けられており、県外から訪れる家族もあるそうです。



## 子育て・家庭教育学級等のミニ情報

私たちにとって、食事は生命維持のために欠かせないものですが、食べたものが原因で、体を害したり、時には命を落とすことがあります。正しい知識を持って、適切に食品を選び、保管や調理方法に心を配らなければなりません。

岐阜県生活衛生課では、安全で安心な食生活のため、県民の皆様が自ら食品を判断し選択できるように、正しい情報を配信し、学んでいただく機会を提供しています。

ぜひご利用ください！

### ●食卓の安全・安心ニュース

岐阜県のHPに掲載しています。

毎月テーマを決め、キャラクターの博士とQ子の会話形式で分かりやすく「食卓の安全・安心ニュース」



### ●出前講座「食品の安全 知っ得講座」(無料講師派遣)

ご希望の日時・場所に職員を派遣します。

食品安全に関する7つのテーマから選んで、詳しく学んでいただくことができます。併せて、食育についてもテーマにすることができます。

### ●食の探訪「見て納得！行政機関」

食品に残留する農薬や食品添加物等の検査を行う検査施設など、食品に関係する7つの研究機関の「施設見学」を実施しています。



「食品の安全  
知っ得講座」  
「見て納得！  
行政機関」

## 出前講座「食品の安全 知っ得講座」



県では、ご希望の日時及び場所に職員(県庁または保健所・センター等)を派遣し、食品安全についてお話をする「出前講座」を実施しています。

講師料、資料代など経費は不要です。

※ 会場は、申込者の皆様でご用意ください。

### 申込み方法

#### 1 参加者を集める

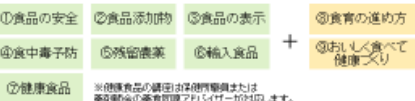
出前講座は、5人以上であれば人数制限はありません。保育園や幼稚園、小学校、PTA、自治会のほか、お友達同士など、どんなグループでも構いません。

#### 2 講座を選ぶ

講座テーマ一覧から受講したい講座を選んでください。

◆必須7テーマから1つ選択する。

◆希望があれば、食育等のテーマを選択する。



※健康食品の講座は7月以降開催または8月以降の養育講座Aラインが対象となります。

#### 3 参加申込み及び会場の確保

申込用紙に必要事項を記載の上、メール又はFAXにてお申込みください。

※日程調整の都合によりご希望に添えない場合もありますので、お早めにご相談ください。

※出前講座の会場は主催者である皆様で確保してください。

※オンライン開催も可能です。その場合には、参加者が使用する機材や通信環境等は、主催者(参加者)でご準備ください。

### お問い合わせ先

岐阜県 健康福祉部生活衛生課 〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1  
TEL: 058-272-8284 FAX: 058-278-2627 E-mail: c11222@pref.gifu.lg.jp

## 食卓の安全・安心ニュース(7号)

05.10.31発行  
発行所：岐阜県健康福祉部生活衛生課  
電話：058-272-8284

### 毒キノコによる食中毒が発生しています！

Q子：博士！見てほしい！菌にキノコが生えていますよ！形も色もシイタケに似ているし、

きつと食べられそうですよ！

博士：まてまて、Q子。自然に生えているキノコには、毒キノコもあるから、「きつと、食べられるキノコ」

たろうという考え方は、絶対にダメ！

Q子：え〜、いつも食べている「シイタケ」でとって食べているんだよね〜

### 岐阜県で起こった毒キノコによる食中毒

博士：下に示したキノコは、「ツキヨタケ」という毒キノコで、ツキヨタケによる食中毒は、今年10月に岐阜県でも発生しているんよ。見た目や色が、シイタケやシイタケに似ていて、一見食べることができそうだが、食べると嘔吐、下痢、腹痛等の症状が現れるんよ。

#### ツキヨタケ

※食卓において、手洗いや手拭き紙による手洗いや消毒は必ず行ってください。

以下、岐阜県で発生した一事例

経緯

原因

関連しやすい食用キノコ

キノコ

キノコ

キノコ

キノコ

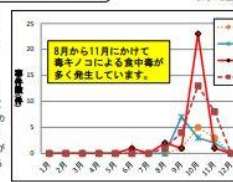
### 毒キノコによる食中毒の発生状況(全国)

参考：厚生労働省ホームページ

博士：右下のグラフは、令和元年から令和4年までに全国で発生した毒キノコによる食中毒の発生件数を月別に示したものの中心。

Q子：秋に多いですね！

博士：岐阜県でも、今年に入って1件、令和2年に3件の事件が起きている。すべて「ツキヨタケ」が原因の事件じゃ。全国的にも、毒キノコによる食中毒の中で、ツキヨタケが原因の事件が最も多くなっているんよ。



## 「食品安全 知っ得講座」講座テーマ

### 食品安全に関する7テーマ

① 食品の安全：食品の安全に関して全般的にご説明します。個別のテーマではなく、様々な話題について聞いてみたい方にオススメです。

② 食品添加物：食生活を送る上で避けては通れない食品添加物について、「なぜ使われているの?」、「食品添加物って安全なの?」などといった疑問について説明します。

③ 食品の表示：食品の表示には消費者の求める情報が多く詰まっています。日常よく目にする食品の表示について、食品表示法で定められた事項を中心に説明します。

④ 食中毒予防：家庭での食中毒を予防するために、日頃の生活でどの様なことに注意すればよいかを説明します。

⑤ 残留農薬：農薬は農産物を安定的に生産するために大切な役割を果たしています。また、安全な農産物を提供するため、生産から流通段階での安全対策を説明します。

⑥ 輸入食品：輸入食品なくしては私たちの食生活は成り立たないといっても過言ではありません。現状や、安全確保のための対策などについて説明します。

⑦ 健康食品：近年、多種多様な「健康食品」が販売されています。「健康食品」の上手な活用の仕方について説明します。

### 食育に関する2テーマ

⑧ 食育の進め方：幼児期から食育を実践し健康づくりができるよう、食生活についてお話しします。

⑨ おいしく食べて健康づくり：健康づくりに役立つ、バランスの良い食事についてお話しします。

# とても繊細な人「HSP」・とても繊細な子ども「HSC」

(Highly Sensitive Person) (Highly Sensitive Child)

アメリカの心理学者である  
エレン・N・アーロン氏が提唱

5人に1人は、HSC気質をもっている

生まれ持った「特性」です！  
人一倍精細な気質をもって生まれてきた  
だけで、病気ではありません。  
育て方に起因するものではありません。

- 4つの特徴 「DOES」
  - D：情報を深く処理する  
(Depth of processing)
  - O：過剰に刺激を受けやすい  
(easily Overstimulated)
  - E：感情的な反応が強い  
(Emotional responsiveness)
  - S：ささいな刺激を敏感に察知して  
共感する  
(empathy and sensitive to Subtle stimuli)

- 具体的な姿
  - ・ 多くの人が集まる空間や集団行動が苦手  
で、すぐに疲れてしまう
  - ・ 周囲の大きな声が苦手
  - ・ 同級生や同僚が先生や上司から叱られると、自分が叱られているように感じる
  - ・ ちょっとしたことに傷つく、驚く
  - ・ 新しい生活や環境が苦手
  - ・ 音、光などに敏感 集中力を欠くことも
  - ・ 痛みに対してとても敏感
  - ・ 想像力が豊かで、空想しがち
  - ・ 被害妄想になりやすい
  - ・ 「内気な子」と思われやすい

- 適する職業（個人により異なる）
  - ・ 精密さを求められる仕事
  - ・ 情報技術関連分野
  - ・ 人の心や体のケアに携わる仕事
  - ・ 創造性を発揮できる仕事
  - ・ 在宅ワークができる仕事

HSCの子どもにとっては、集団生活を行う学校は負担が大きな場所となります。本人が楽しんでるように思えても、刺激を敏感に受け取るため、心身に疲労が蓄積しやすいので、注意して見守るようにしてあげましょう。保護者に心配をかけないようにと頑張りすぎてしまうこともあるので、疲れが溜まりすぎないように休養を促すようにしましょう。特徴がお子さんと重なり、心配な姿が見られる場合は、HSP・HSCに造詣が深い医療機関を受診し、アドバイスを受けるようにしてみてください。

## 職場でも家庭教育について学んでいただけます！

### 企業内家庭教育研修

子どもたちの健やかな成長のために、企業・事業所で家庭教育についての研修会の実施をお手伝いします。

**講師派遣します**

研修を受ける企業  
学びたいけど、時間がないよ…

「いつかどうしたらいいんだろう？」  
「どうやって子ども達を育てたいんだろう？」

**職場で研修**

従業員のみなさんに家庭教育を学ぶ場をつくりませんか？

子育て中、これから期になる方、管理職の皆さんなどを対象に、ニーズに合わせた研修をコーディネート。

研修を受ける企業  
「仕事も家庭も充実しています!!」

男女共同参画  
ワークライフ・バランス

岐阜県 環境生活政策課

### 研修の様子

実施企業 ヨツハシ株式会社  
テーマ 親子の抱え合いを  
～コミュニケーションアップ～

**参加者の声**

日頃の行動一つ一つが子どもの成長に影響するということも、改めて理解でき、自分の行動や考え方を見直すことができた。

研修を通して、自分の子育ての現状や悩み、改善策を共有できたり、コミュニケーションの重要性を改めて理解することが出来た。実際に、今自分自身に実践しよう!

**企業内家庭教育研修 開催Q&A**

Q 開催までの手順は？  
A 下記のような手順です。

Q 費用は？  
A 講師料は基本的に無料です。講師の交通費・会場については、ご負担いただきます。

Q 会場は？  
A 企業・事業所内でも、会場にご準備ください。オンライン開催やオンライン配信による研修も可能です。

Q 内容は？  
A 家庭教育に関する幅広いテーマを設定することが出来ます。  
(例)子育てと会社(社内)生活(ストレスマネジメント)など  
\*子どもの発達・育児  
\*食育(栄養バランス・食育) など

お問い合わせ先

| 氏名    | 担当部署       | 電話番号         | メールアドレス      |                     |
|-------|------------|--------------|--------------|---------------------|
| 坂本 博  | 県庁 環境生活政策課 | 058-272-1111 | 058-279-2605 | c11260@pref.gifu.jp |
| 佐藤 美穂 | 企業研修推進課    | 0584-75-1111 | 0584-75-4429 | c20500@pref.gifu.jp |
| 中 道   | 企業研修推進課    | 0575-33-4011 | 0575-33-1492 | c20504@pref.gifu.jp |
| 河 原   | 企業研修推進課    | 0574-25-3111 | 0574-25-3834 | c20504@pref.gifu.jp |
| 中津 彰彦 | 企業研修推進課    | 0573-25-1111 | 0573-25-7129 | c20508@pref.gifu.jp |
| 有 野   | 企業研修推進課    | 0577-33-1111 | 0577-33-1085 | c20509@pref.gifu.jp |

岐阜県は、各企業が家庭教育に主体的に取り組むことができる環境整備を進めることにより、家庭教育を地域全体で応援する社会的な取組を推進することで、子どもたちの健やかな成長に寄り添えることができる職場の実現を目指し、企業内家庭教育推進体制を確立し、家庭教育支援体制に取り組んでいます。

園や学校で、家庭教育学級を企画運営していただいておりますが、お仕事の関係で、子育てについて学びたいのだけれど、参加が難しい保護者の方もみえると思います。そこで、企業の従業員研修の1つとして、家庭教育・子育てについて学ぶ機会を設けていただくための支援、講師派遣を行っています。お勤めの事業主様等にご紹介いただければ幸いです。気軽にご相談ください。